



宮城県におけるヤドリギツグミ *Turdus viscivorus* の初確認

荒井颯太^{1,2,*}・池田泰宏³・宮本竜也^{1,2}・田谷昌仁^{2,4}

1. 東北大学理学部生物学科

2. 東北大学野鳥の会

3. 仙台市青葉区木町通 1-1-18 Ry the OVAL 703

4. 東北大学大学院生命科学研究所

はじめに

ヤドリギツグミ *Turdus viscivorus* はヨーロッパ、西アジア、中央アジアやヒマラヤ山脈西部に分布する (Clement & Hathway 2000). 秋から冬にかけて、スカンジナビアや西ロシアの繁殖個体はジブラルタル海峡を南下し、キプロス島を東へ通過する (Clement & Hathway 2000). イギリスや北西ヨーロッパの繁殖個体は、アイルランドやフランス等の短距離を渡る (Clement & Hathway 2000). ヒマラヤの繁殖個体は標高の低い所へ移動する (Clement & Hathway 2000). 一般に、夜に単独もしくは小集団で渡りを行う (Clement & Hathway 2000).

2020 年 10 月、第一著者は本種を宮城県で発見し、同年 11 月まで継続観察を行った. 日本国内では発見記録が少なく、愛知県、福岡県、石川県、三重県、北海道、山形県、香川県、山梨県での報告例があるのみである (表 1). 本種はこのような記録的希少種であり、宮城県での確認は初であるため、その状況と記録をここに報告する.

観察記録

2020 年 10 月 17 日、9 時 20 分頃に宮城県仙台市青葉区川内 26、東北大学川内キャンパス萩ホール (38.258172N, 140.855457E) 付近

2022 年 8 月 15 日受理

キーワード: ヤドリギツグミ, 成鳥, 迷鳥

*: souta-0104@outlook.jp

の草地に降りている本個体を第一著者が発見した. 周囲は植栽と芝生で構成された緑地公園となっており、樹高 20m 以下のモミ *Abies firma*, メタセコイア *Metasequoia glyptostroboides*, アカマツ *Pinus densiflora*, クロマツ *P. thunbergii*, ソメイヨシノ *Cerasus × yedoensis*, エノキ *Celtis sinensis*, イヌツゲ *Ilex crenata* 等の樹種で構成されていた. その後も周辺に滞在し、終認は 2020 年 11 月 10 日だった. なお、植物種の和名および学名は YList に準拠した.

本個体は中型の鳥類で、ツグミ *T. naumanni* によく似た体型をしていた. 直接の比較はできなかったが、周辺で秋季から冬季にかけてよく観察されるツグミやシロハラ *T. pallidus* と比較し明らかにサイズが大きく見えた.

本個体は頬、額から上頸まで、および上背から尾と翼上面がオリーブ色みのある灰褐色で、上背から下背にかけて、丸みを帯びた灰色の斑が並んでいた. 大雨覆の羽先には汚白色の斑があった. 頬は灰白色で、眼の下と後方から暗灰色の模様が二本、耳羽を囲うように伸びていた. 腮から胸にかけて、バフ白色の地に黒の縦斑が密に存在しており、黒い顎線があった. また胸から下腹にかけてバフ色の地に丸みを帯びた黒斑が存在していた. 側胸の黒斑は滲んでいるように見えた. 下尾筒には白地に黒の縦斑があり、外側 3 枚の尾羽の先端に白斑があった.

表 1. 日本国内におけるヤドリギツグミの記録.

Table 1. Records of the Mistle Thrush observed in Japan.

No.	記録年月日 Date	都道府県 Prefecture	個体数 Amount	状況 Record	年齢 Age of birds	出典 References
1	1984.2.8-3.28	愛知県	1	観察・撮影	幼鳥?	Brazil 2003
2	1992.5.13	山形県	不明	不明	不明	築川・亀谷 2021
3	1998.11.3	福岡県	1	観察・撮影	言及なし	宮崎 2002
4	1999.10.15	石川県	1	観察・撮影	言及なし	平野・尾崎 2002
5	2013.12.17 -2014.4.8	三重県	1	観察・撮影	幼鳥	中井・梅垣 2015
6	2015.2.25 -2.26	北海道	1	観察・撮影	言及なし	橘 2015
7	2020.2.3 -2.18	香川県	1	観察・撮影	言及なし	水野 2020
8	2020.4.9 -4.10	山形県	1	観察・撮影	言及なし	築川・亀谷 2021
9	2020.10.17 -11.10	宮城県	1	観察・撮影	成鳥	本記録
10	2021.3 月 下旬 2021.3 月下旬 (約 20 日間 継続観察)	山梨県	1	観察・撮影	言及なし	窪田 2021

下雨覆と腋羽は白く見えた。アイリングは白く、嘴は黒く基部は淡黄色だった。脚は肉色をしていた (図 1a-e)。

本個体は発見地周辺の草地や木立を生活圏として滞在していた。大木の地面から 5 m 程の高さの枝にとまって休んだり草地で採餌したりし、終認されるまで生息環境が大きく変わることはなく、発見地周辺の半径 100 m 以内で観察されることがほとんどだった。本個体は、主に草地で甲虫目の幼虫やガ類の幼虫、落下したイヌツゲの果実などを採餌していた。樹上でエノキの果実を採餌していることもあった (図 2)。警戒心は滞在後期になるにつれ強くなっていき、周囲で散策をする人や犬が近づくと飛翔して逃げた。人や犬から逃避する際は「ジリリリ」というようなエナガ *Aegithalos caudatus* の地鳴きを強めたような声を発した。

種・亜種・年齢・性別の同定

上記の大きさや体型の特徴から、本個体はツグミ亜科 Turdinae に属すると考えた。また、同亜科に属する種のうち、上面の色が一様で、下面に斑点があるという外見の特徴をもつ種として、ウタツグミ *T. philomelos*、セアカトラツグミ *Zoothera mollissima*、ヒマラヤトラツグミ *Z. salimalii*、シセントラツグミ *Z. griseiceps*、オナガトラツグミ *Z. dixonii*、ヤドリギツグミが挙げられる (日本産鳥類目録第 7 版に掲載されていない種の和名はそれぞれ Collar 2020, Collar *et al.* 2020, Kirwan 2020, del Hoyo *et al.* 2020 に準拠した)。ウタツグミはツグミよりも明らかに小さく尾も短く、さらに背面のオリーブ色が少ない (Clement & Hathway 2000, 真木ほか 2014) ため、本個体とは異なる。セアカトラツグミ、ヒマラヤトラツグミ、シセントラツグミの体上面はどれも赤茶色をしており、大雨覆の先端に白斑がなく、体下面の黒斑は三日月型である (Clement & Hathway 2000, del

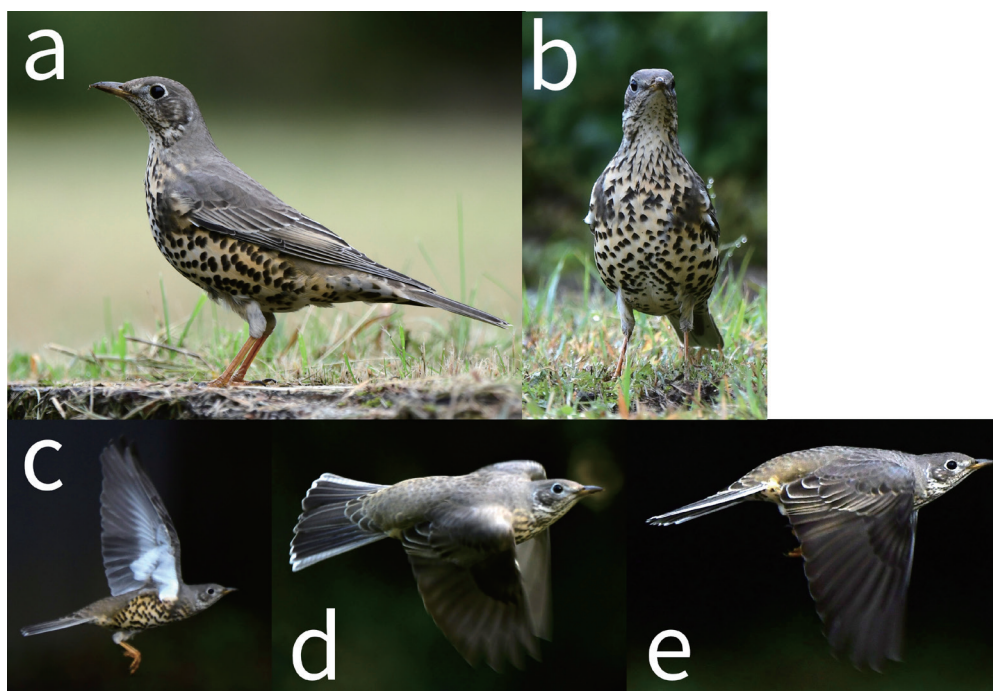


図 1. 2020 年 10 月に宮城県仙台市で観察されたヤドリギツグミ。撮影：池田泰宏。(a) 側面からの写真。2 本の黒い線が耳羽を囲んでいる。背面は灰褐色で、風切羽は灰色で大雨覆先端には白斑がある。(b) 正面からの写真。体下面はパフ白色の地に黒い斑がある。(c) ~ (e) 飛翔時の下面および上面。最外尾羽は先端に白斑がある。大雨覆は全て換羽済みで世代差はない。

Fig. 1. The Mistle Thrush observed in Sendai, Miyagi Pref. in October 2020 (Photo by Y. Ikeda). (a) The side view of the Mistle Thrush. The bird has two black lines around the ear, a brownish-gray back, gray flight feathers, and greater coverts with white tips. (b) The front view of the Mistle Thrush. The bird has an off-white belly with dark spots. (c)~(e) The under and upper parts of the Mistle Thrush. The outermost tail feathers are white at the tip. Greater coverts have been molted completely.

Hoyo *et al.* 2020, Kirwan 2020). これらのことから本個体とは異なる。オナガラツグミは背面のオリーブ色みが強く、雨覆の羽縁はパフ色がかかり、翼を閉じた時 2 本の翼帯を形成する。さらに体下面の黒斑は三日月形である (Clement & Hathway 2000) 点から、本個体とは異なる。大型で上面が一様に淡いオリーブ色を帯び、下面に暗色の斑があること等がヤドリギツグミの特徴と一致したため、本個体をヤ

ドリギツグミと判断した (Clement & Hathway 2000)。

ヤドリギツグミには 3 つの亜種が提案されている (Shirihai & Svensson 2018, Donsker & Rasmussen 2022, Clements *et al.* 2021, HBW & BirdLife International 2022)。3 亜種のうち、最も東側に分布する *T. v. bonapartei* は、基亜種に比べサイズが大きく、30 cm 近くに達する。背面のオリーブ色は淡く灰色がかっており、腹



図 2. 宮城県仙台市で観察されたヤドリギツグミの採餌. (a) 甲虫目の幼虫 (撮影: 田谷昌仁), (b) 鱗翅目の幼虫 (撮影: 宮本竜也), (c) エノキの実 (撮影: 池田泰宏) などを食べていた.

Fig. 2. A Mistle Thrush ate mainly insects and fruits. (a) Eating larva of beetle (Scarabaeidae) (Photo by M. Tatani). (b) Eating larva of Lepidoptera (Photo by T. Miyamoto). (c) Eating fruit of *C. sinensis* (Photo by Y. Ikeda).

部もより白く、体下面の斑の黒色は薄い。 *T. v. deichleri* は *T. v. bonapartei* と似た配色をしているが、そのサイズは基亜種に似ている (Shirihai & Svensson 2018)。したがって本個体は *T. v. deichleri* とは異なり、北アフリカを中心とした分布域からも *T. v. deichleri* である可能性は低い。本個体は背面が淡く灰色がかったオリーブ色をしていること、最外側尾羽に大きな白斑があることから、亜種 *T. v. bonapartei* である可能性が高い。しかし、基亜種 *T. v. viscivorus* でも東側に分布するものほど体色が淡色になる傾向がある (Clement & Hathway 2000) ため、野外観察のみから亜種を識別することは難しい。

本種の成鳥は繁殖後の完全換羽で大雨覆を全て換羽するため、秋季には大雨覆は一様に新しい (Svensson 2011)。一方で、秋季の幼鳥は最外側の大雨覆は未換羽で羽縁は汚白色であり、新羽よりも短く摩耗している (Svensson 2011)。本個体では大雨覆の中で世代差は見受けられなかったうえ、尾羽は幅広く先端も丸かったため、本個体は成鳥であると考えられる。また、本種は雌雄同色であり、外見から雌雄の識別は出来なかった (Clement & Hathway 2000)。

本報告は出版されている記録としてはヤドリギツグミの国内 9 例目の記録であり、年齢につ

いて言及されている記録の中では唯一成鳥の観察報告である（表 1）。

謝辞

本報告の執筆にあたり、筆者らとともに継続して当地で観察していただいた東北大学野鳥の会のメンバー、宮城県外のヤドリギツグミの文献を提供していただいた日本野鳥の会宮城県支部の高橋和也氏、日本野鳥の会香川県支部の大川庫弘氏、および本報文を査読していただいた査読者の方々にお礼申し上げます。

参考文献

- Brazil, M. A. 2003. Mistle Thrush *Turdus viscivorus*: New for Japan. 山階鳥研報. 34: 320–324.
- Clement, P & Hathway, R. 2000. THRUSHES. Helm. London.
- Clements, J. F., T. S. Schulenberg, M. J. Iliff, S. M. Billerman, T. A. Fredericks, J. A. Gerbracht, D. Lepage, B. L. Sullivan, and C. L. Wood. 2021. The eBird/Clements checklist of Birds of the World: v2021., accessed on 10 August 2022.
- Collar, N. 2020. Mistle Thrush (*Turdus viscivorus*), version 1.0. In Birds of the World (J. del Hoyo, A. Elliott, J. Sargatal, D. A. Christie, & E. de Juana, Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY.
- Collar, N. 2020. Long-tailed Thrush (*Zoothera dixonii*), version 1.0. In Birds of the World (J. del Hoyo, A. Elliott, J. Sargatal, D. A. Christie, and E. de Juana, Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY.
- Collar, N., G. M. Kirwan, and D. A. Christie. 2020. Alpine Thrush (*Zoothera mollissima*), version 1.0. In Birds of the World (J. del Hoyo, A. Elliott, J. Sargatal, D. A. Christie, and E. de Juana, Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY.
- del Hoyo, J., N. Collar, & D. A. Christie. 2020. Sichuan Thrush (*Zoothera griseiceps*), version 1.0. In Birds of the World (J. del Hoyo, A. Elliott, J. Sargatal, D. A. Christie, & E. de Juana, Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY, USA.
- Gill, F, D Donsker, and P Rasmussen (Eds). 2022. IOC World Bird List (v 12.2) Doi 10.14344/IOC.ML.12.2., accessed on 10 August 2022.
- HBW and BirdLife International. 2022. Handbook of the Birds of the World and BirdLife International digital checklist of the birds of the world., accessed on 10 August 2022.
- 平野賢次・尾崎雄二. 2002. 石川県におけるヤドリギツグミの初記録. Strix 20: 175–176.
- Kirwan, G. M. 2020. Himalayan Thrush (*Zoothera salimalii*), version 1.0. In Birds of the World (J. del Hoyo, A. Elliott, J. Sargatal, D. A. Christie, & E. de Juana, Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY.
- 窪田茂. 2021. 珍鳥来甲・ヤドリギツグミ. やまなし野鳥の会・日本野鳥の会甲府支部報 カワセミ. 155: 2.
- Svensson, L. (村田健訳) 2011. ヨーロッパ産スズメ目の識別ガイド. 文一総合出版. 東京.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 日本の野鳥650. 平凡社. 東京.
- 水野牧子. 2020. ヤドリギツグミの特徴. 日本野鳥の会香川県支部報 かいづり. 434: 1.
- 宮崎八州雄. 2002. 本邦二例目のヤドリギツグミの記録. 佐賀自然史研究 8: 28.
- 中井節二・梅垣佑介. 2015. 三重県紀宝町におけるヤドリギツグミ *Turdus viscivorus* の越冬記録. Strix 31: 159–163.
- Shirihai, H. & Svensson, L. 2018. HANDBOOK OF WESTERN PALEARCTIC BIRDS Volume 1. Helm. London.
- 橘利器. 2015. 北海道初記録！ヤドリギツグミ. 北海道野鳥だより. 180: 2–3.
- 築川堅治・亀谷辰郎. 2021. 日本の離島の野鳥①飛鳥. わたりがらす出版. 神奈川.

The first record of the Mistle Thrush in Miyagi Prefecture, northern Japan

Sota Arai^{1,2,*}, Yasuhiro Ikeda³, Tatsuya Miyamoto^{1,2} & Masanori Tatani^{2,4}

1. Department of Biology, Faculty of Science, Tohoku University

2. Tohoku University Birdwatching Club

3. #703, Ry the OVAL, Kimachidori, Sendai-shi, Miyagi, Japan

4. Graduate School of Life Sciences, Tohoku University

A Mistle Thrush *Turdus viscivorus* with adult winter plumage was observed from October 17 to November 10, 2020, in Sendai City, Miyagi Prefecture, northern Japan. This is the first record of the adult plumage of the Mistle Thrush and the ninth observation record in Japan.

Keywords: *Turdus viscivorus*, *Adult plumage*, *Vagrant visitor*

*: souta-0104@outlook.jp